

[決算特別委員会（全体会）説明資料]

令和 6 年度

病院事業会計決算の概要

令和 7 年 9 月 3 0 日

島 根 県 病 院 局

令和6年度 病院事業の概要

1 概況

病院事業は、平成19年4月に地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに病院事業を所管する独立した組織として、病院事業管理者の下、病院局が設置された。

病院局の組織には、本局（県立病院課）、中央病院及びこころの医療センターを置き、病院運営にあたっては、「医療機能の充実と政策医療の推進」「地域医療への積極的な支援」及び「医療従事者の育成」を重点3項目として取り組むとともに、経営の健全化に努め、質の高い医療や政策医療等を効果的・安定的に提供し、県立病院としての役割と使命を果たすこととしている。

令和6年度における中央病院の経営状況については、「中央病院経営改善実行プラン2024」に基づく取組等により入院・外来収益の増加もあったことから、総収益は前年度比0.7%の増となった。

一方、昨年度から引き続き物価高騰に伴う光熱費の高止まり、民間企業の賃上げに伴う委託費の増加等による経費の増に加え、人事委員会勧告に対応した給与費の大幅な増があったことなどにより総費用は前年度比6.1%の増となった。

この結果、経常損益、単年度資金収支とも昨年度に引き続き赤字となった。

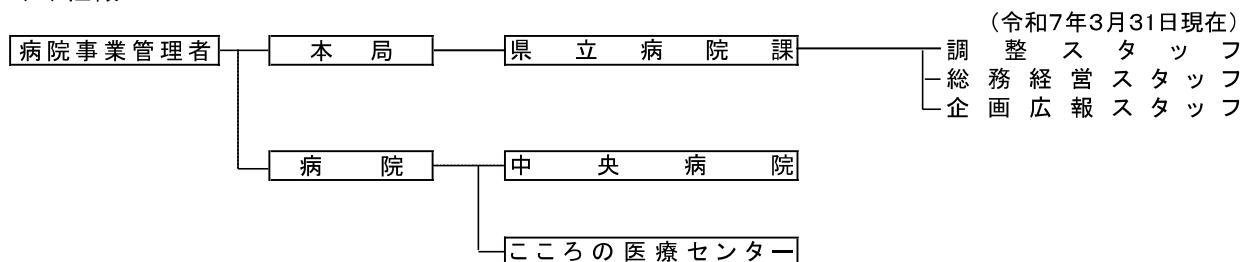
令和6年3月には、総務省からの要請に基づき、更なる経営強化のための取組を進め、県立病院として持続可能な地域医療を提供するための指針となる「島根県立病院経営強化プラン」を策定した。また、令和6年度の実績も踏まえ、具体的な院内の取組内容を示した「中央病院経営改善実行プラン2025」も策定した。これまでの取組の着実な継続と更なる診療報酬単価の増、経費の削減・圧縮、地域の医療機関との連携強化等に一層取り組むこと等、経営改善の取組を進めていく。

令和6年度におけるこころの医療センターの経営状況は、診療報酬改定や施設基準の確保、新規の加算取得等により収益は増となる一方で、前年度に引き続き給与費や物価高騰等による経費の増が顕著であったことから、純損益については3年連続の赤字を計上した。

令和6年度には、具体的な院内の取組内容を示した「こころの医療センター経営改善実行プラン」を策定した。今後もこれまでの取組の着実な継続と更なる診療報酬単価の増、経費の削減・圧縮、地域の医療機関との連携強化に一層取り組む等、経営改善の取組を進めていく。

2 病院局本局

(1)組織



(2)職員の配置状況

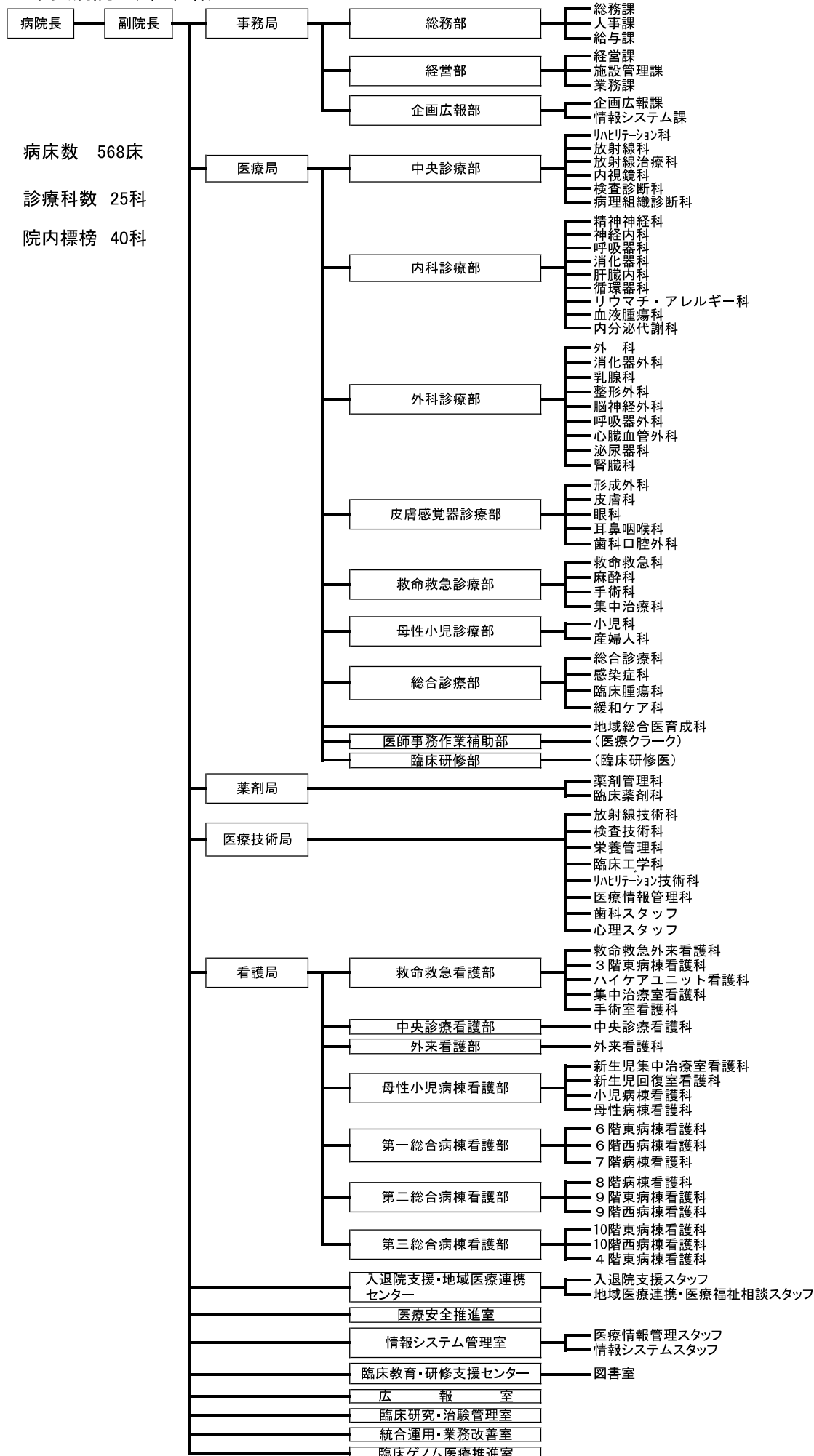
(令和7年3月31日現在)

(単位:人)

職種		令和6年度 現員 A	令和5年度 現員 B	増 減 A - B
特別職	病院事業管理者	1	1	0
行政職	病院局長	1	1	0
	病院局次長	1	1	0
	県立病院課長	0	0	0
	病院事業管理者補佐	1	1	0
	管理監	1	1	0
	調整監	2	2	0
	課長代理	1	1	0
	課長補佐	4	5	▲ 1
	主査	1	0	1
	主任	0	1	▲ 1
	主任主事	1	0	1
合 計		14	14	0

3 中央病院 (1) 組織

(令和7年3月31日現在)



(2) 職員の配置状況

(令和7年3月31日現在)

(単位：人)

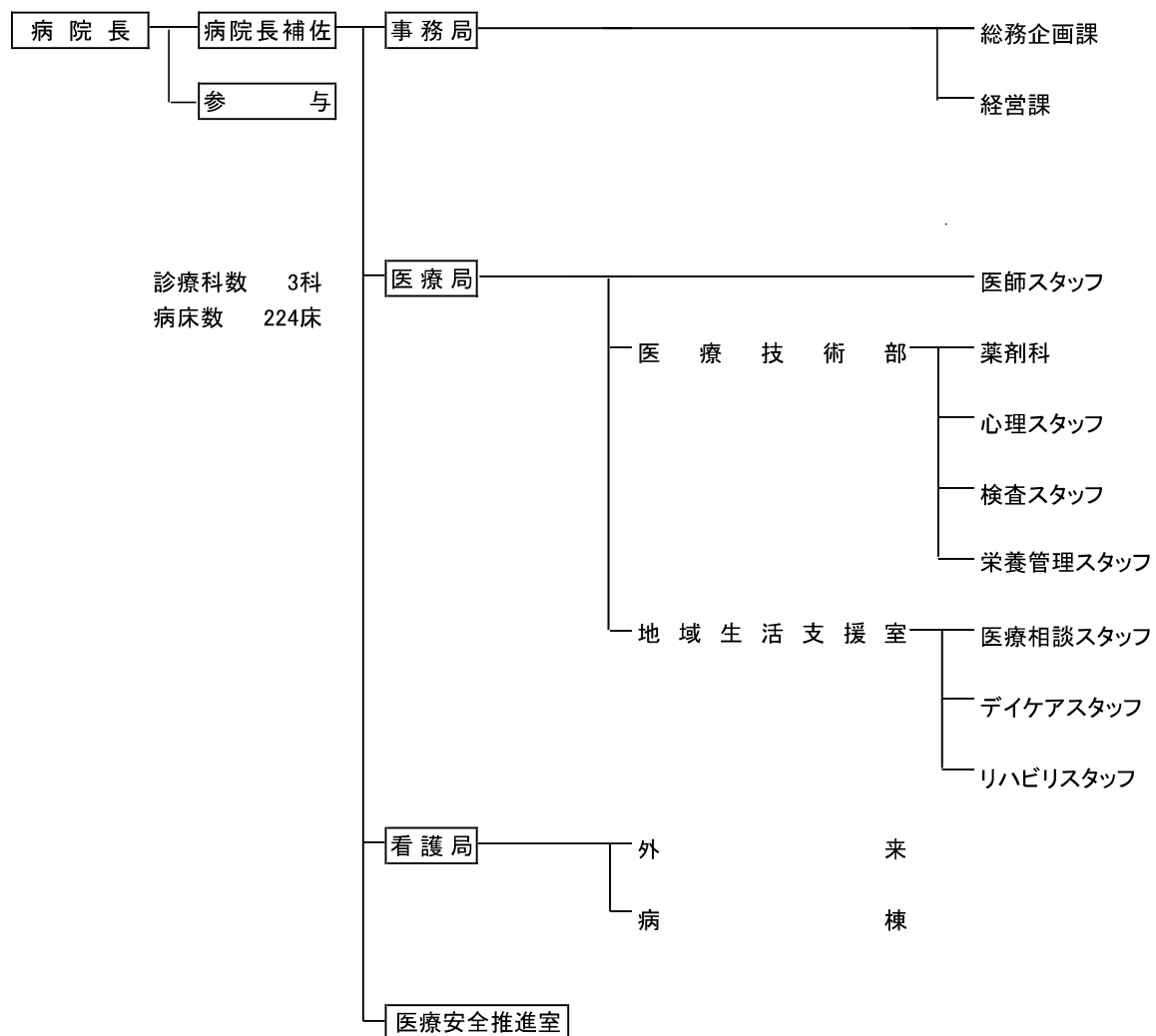
職 種		令和6年度現員			令和5年度現員			増 減		
		正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計
医 師	病 院 長	1		1	1		1	0		0
	参 与 ・ 副 院 長	4		4	4		4	0		0
	医療局長・次長、薬剤局長、 医 療 技 術 局 長	6		6	5		5	1		1
	部 長	38		38	39		39	▲ 1		▲ 1
	医 長	70		70	61		61	9		9
	医 員	21		21	21		21	0		0
	嘱 託 ・ 研 修 医 師	0	30	30	0	29	29	0	1	1
計		140	30	170	131	29	160	9	1	10
看 護 師	副 院 長 ・ 看 護 局 長 ・ 次 長	5		5	5		5	0		0
	看 護 部 長 ・ 師 長	28		28	28		28	0		0
	副 看 護 師 長	40		40	40		40	0		0
	看 護 師	535	47	582	524	51	575	11	▲ 4	7
	准 看 護 師	0	2	2	0	2	2	0	0	0
	助 産 師	43	4	47	43	4	47	0	0	0
計		651	53	704	640	57	697	11	▲ 4	7
医 療 技 術 職 員	薬 剤 師	36		36	35		35	1	0	1
	臨 床 検 査 技 師	45	5	50	38	8	46	7	▲ 3	4
	臨 床 工 学 技 士	23		23	20		20	3		3
	臨 床 心 理 士	4	1	5	4	1	5	0	0	0
	診 療 放 射 線 技 師	30		30	29		29	1		1
	理 学 療 法 士	19	3	22	18	3	21	1	0	1
	作 業 療 法 士	9	1	10	10		10	▲ 1	1	0
	言 語 聴 覚 士	6	1	7	5	1	6	1	0	1
	管 理 栄 養 士	14	3	17	14	3	17	0	0	0
	栄 養 士	3		3	2		2	1		1
	視 能 訓 練 士	3		3	3		3	0		0
	歯 科 衛 生 士	4	4	8	4	4	8	0	0	0
	診 療 情 報 管 理 士	11	1	12	9	2	11	2	▲ 1	1
	医 療 情 報 技 師	3		3	2		2	1		1
	社 会 福 祉 士	9	2	11	8	2	10	1	0	1
	遺 伝 カ ウ ン セ ラ ー		2	2			0	0	2	2
計		219	23	242	201	24	225	18	▲ 1	17
事 務 職 員	事務局長・次長・部長・調整監	1		1	1		1	0		0
	課 長	1		1	1		1	0		0
	主 幹 ・ 企 画 員 ・ 主 任 ・ 主 任 主 事 ・ 主 事 ・ 技 師	27		27	28		28	▲ 1		▲ 1
	事 務 員	0	122	122	0	115	115	0	7	7
計		29	122	151	30	115	145	▲ 1	7	6
技 能 労 務 職 員	医 療 技 術 員	0		0	0		0	0		0
	運 転 技 師	0		0	0		0	0		0
	調 理 師	0		0	0		0	0		0
	営 繕 技 術 員	0		0	0		0	0		0
	施 設 管 理 技 師	0		0	0		0	0		0
	看 護 助 手	0	48	48	0	49	49	0	▲ 1	▲ 1
計		0	48	48	0	49	49	0	▲ 1	▲ 1
合 計		1,039	276	1,315	1,002	274	1,276	37	2	39

(注) 令和6年度現員、令和5年度現員とも病院局本局を本務とする職員は含まない。

4 こころの医療センター

(1) 組織

(令和7年3月31日現在)



(2) 職員の配置状況

(令和7年3月31日現在)

(単位：人)

職 種		令和6年度現員			令和5年度現員			増 減		
		正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計
医 師	病 院 長	1		1	1		1	0	0	0
	副 院 長	0		0	1		1	▲ 1	0	▲ 1
	参 与	1		1	0		0	1	0	1
	病 院 長 補 佐	1		1	0		0	1	0	1
	医 療 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 局 次 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 技 術 部 長	1		1	1		1	0	0	0
	部 長	3		3	2		2	1	0	1
	医 長	2		2	3		3	▲ 1	0	▲ 1
	医 員	4		4	3		3	1	0	1
	嘱 託 ・ 研 修 医 師	0		0	0		0	0	0	0
計		15	0	15	13	0	13	2	0	2
看 護 師	看 護 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	看 護 局 次 長	1		1	1		1	0	0	0
	看 護 師 長	7		7	7		7	0	0	0
	副 看 護 師 長	12		12	12		12	0	0	0
	看 護 師	108	16	124	105	16	121	3	0	3
	准 看 護 師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		129	16	145	126	16	142	3	0	3
医 療 技 術 職 員	薬 剤 師	4		4	4		4	0	0	0
	臨 床 検 査 技 師	2	1	3	2	1	3	0	0	0
	作 業 療 法 士	4	3	7	4	3	7	0	0	0
	管 理 栄 養 士	2		2	2		2	0	0	0
	心 理 判 定 員	2		2	2		2	0	0	0
	臨 床 心 理 士	2	4	6	2	5	7	0	▲ 1	▲ 1
	病 歴 士 ・ 診 療 情 報 管 理 士	1	2	3	1	2	3	0	0	0
	精 神 保 健 福 祉 士	8	5	13	8	4	12	0	1	1
計		25	15	40	25	15	40	0	0	0
事 務 職 員	事 務 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	調 整 監	0		0	0		0	0	0	0
	課 長 ・ 企 画 幹	2		2	2		2	0	0	0
	主 幹 ・ 企 画 員 ・ 主 任 ・ 主 任 主 事 ・ 主 事	7	13	20	7	12	19	0	1	1
計		10	13	23	10	12	22	0	1	1
技 能 労 務 職 員	医 療 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	運 転 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	調 理 師	0		0	0		0	0	0	0
	営 繕 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	施 設 管 理 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	看 護 助 手	0	11	11	0	11	11	0	0	0
計		0	11	11	0	11	11	0	0	0
合 計		179	55	234	174	54	228	5	1	6

注) 令和6年度現員、令和5年度現員とも病院局本局を本務とする職員は含まない。

令和6年度 病院事業会計決算の概要

I 中央病院

1 事業概要

- (1) 県内全域をエリアとした三次医療を担う基幹病院として、高度・特殊・専門医療の提供、政策医療の推進、地域医療への支援や医療従事者の育成などの役割を果たした。
- (2) 主な機能として高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第二種感染症指定医療機関、地域周産期母子医療センターを運用し、また、ドクターヘリの基地病院として救命救急医療に取り組んだ。
- (3) 令和6年3月に島根県と締結した感染症に係る医療措置協定に基づき、新興感染症エリアを整備し、県から要請された感染症に対応する病床数の確保に努めた。
- (4) 経営改善実行プランに基づき、収入増・費用削減の取組を実施した。
- (5) 患者数等の状況（対前年度比較）
患者数は、入院、外来ともに増加したうえ、診療単価も診療報酬改定の影響や医療の質の向上による診療報酬加算の取得等があり増加した。

区分		令和6年度 A	令和5年度 B	増減 A－B
入院	患者数（人）	162,723	160,545	2,178
	うち新規入院患者数	12,722	12,661	61
	診療単価（円）	77,557	76,218	1,339
外来	患者数（人）	220,620	219,598	1,022
	うち救急患者数	17,243	17,806	▲ 563
	診療単価（円）	20,724	20,285	439

2 収益的収支

(1) 収 益

- ① 医業収益は、前年度比480百万円の増
 - 1) 入院収益：患者数及び診療単価の増により384百万円の増
 - 2) 外来収益：患者数及び診療単価の増により118百万円の増
- ② 医業外収益は、補助金の減等により前年度比416百万円の減
- ③ 総収益は、前年度比136百万円の増

(2) 費 用

- ① 医業費用は、前年度比1,338百万円の増
 - 1) 給与費：給与改定による増等により1,135百万円の増
 - 2) 材料費：診療材料費の増等により84百万円の増
 - 3) 経 費：委託料や修繕費の増等により227百万円の増
 - 4) 減価償却費：機械備品減価償却費の減等により72百万円の減
- ② 医業外費用は、前年度比34百万円の減
- ③ 総費用は、前年度比1,294百万円の増

(3) 経常損益は、1,697百万円の損失計上となり、前年度比1,239百万円の減益

(4) 純損益は、1,632百万円の損失計上となり、前年度比1,158百万円の減益

3 資本的収支

- (1) 収入は、企業債や企業債償還金に充当する一般会計負担金等で2,293百万円
- (2) 支出は、建設改良費と企業債償還金、長期借入金償還金で3,518百万円
- (3) 収支不足額1,225百万円は、過年度分損益勘定留保資金等により補填

4 単年度資金収支

償却前損益に資本的収支を反映した単年度資金収支は▲1,876百万円で、前年度比1,254百万円の減

5 比較貸借対照表

期末現金預金残高は846百万円で、前年度比1,296百万円の減

【令和6年度中央病院決算状況】

(単位：百万円)

	【収益的収支】	R 6 年度 A	R 5 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
1	総 収 益	20,820	20,684	136	
2	医業収益	18,314	17,834	480	
3	入院収益	12,620	12,236	384	患者数＋2,178人、単価＋1,339円／人
4	外来収益	4,572	4,454	118	患者数＋1,022人、単価＋439円／人
5	その他医業収益	1,121	1,143	▲ 22	一般会計負担金▲16
6	医業外収益	2,433	2,850	▲ 416	新型コロナウイルス感染症関連補助金▲117 一般会計負担金▲140
7	特別利益	72	0	72	過年度修正益
8	総 費 用	22,452	21,158	1,294	
9	医業費用	21,072	19,735	1,338	
10	給与費	11,319	10,184	1,135	給料＋320、手当＋367、報酬＋27 法定福利費＋99、退職給付費＋260
11	うち引当金	1,362	1,031	331	
12	材料費	4,717	4,633	84	診療材料費＋72
13	経費	3,667	3,441	227	委託料＋64、修繕費＋51
14	減価償却費	1,264	1,336	▲ 72	建物＋10、器械備品▲79
15	その他医業費用	105	141	▲ 36	資産減耗費▲29
16	医業外費用	1,372	1,406	▲ 34	併任医師給与一般会計負担金▲49 控除対象外消費税＋33 企業債償還利息▲32、診療報酬減点▲10
17	特別損失	8	17	▲ 9	過年度修正損▲16、固定資産売却損＋7
18	経常損益	▲ 1,697	▲ 457	▲ 1,239	(2行目＋6行目)－(9行目＋16行目)
19	純 損 益	▲ 1,632	▲ 475	▲ 1,158	1行目－8行目
20	償却前損益	▲ 651	343	▲ 994	
	【資本的収支】	R 6 年度 A	R 5 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
21	資本的収入	2,293	2,865	▲ 572	企業債752（▲564） 一般会計負担金1,486（▲25） 新型コロナウイルス感染症対策設備整備費補助金0 （▲21） 新興感染症対応力強化施設・設備整備費補助金44 （皆増）
22	資本的支出	3,518	3,830	▲ 312	建設改良費817（▲548） 〔改良384（▲72）、資産購入432（▲477）〕 企業債償還2,401（▲63）、長期借入金償還300（皆増）
23	資本的収支	▲ 1,225	▲ 965	▲ 260	21行目－22行目
	【単年度資金収支】	R 6 年度 A	R 5 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
24	単年度資金収支	▲ 1,876	▲ 622	▲ 1,254	20行目＋23行目

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

(単位：百万円)

	【比較貸借対照表】	期 末	期 首	比較増減	備 考（主なもの）
25	固定資産	20,932	21,483	▲ 552	減価償却による減等
26	流動資産	3,813	4,972	▲ 1,159	
27	うち現金預金	846	2,143	▲ 1,296	
28	資産合計	24,744	26,456	▲ 1,711	
29	固定負債	10,833	11,708	▲ 875	企業債の減（▲1,312） 退職給付金引当金の増（+437）
30	流動負債	5,386	5,241	144	未払金の増（+704）、賞与引当金の増（+60） 長期借入金の減（▲300）、企業債の減（▲337）
31	繰延収益	7,372	6,720	652	長期前受金の増
32	負債合計	23,592	23,670	▲ 79	
33	資本金	1,761	1,761	0	
34	剰余金	▲ 608	1,024	▲ 1,632	当年度純損失による減
35	資本合計	1,153	2,785	▲ 1,632	
36	負債・資本合計	24,744	26,456	▲ 1,711	

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

中央病院の経営改善の取組

1. 平成30年度以降の取組

- 平成25年度以降毎年度単年度資金収支の赤字が続き、一時は病院の運用現金の枯渇が見込まれる危機的な状況にあったことから、平成30年度には経営改善計画を策定、令和2年度以降は毎年度「経営改善実行プラン」を策定し、経営改善に向けて取組を進めてきた。
- 令和6年度における中央病院の経営状況については、「経営改善実行プラン」に基づく取組等により入院・外来収益の増加もあったことから、総収益は前年度比0.7%の減となった。
 一方、昨年度から引き続き物価高騰に伴う光熱費の高止まり、民間企業の賃上げに伴う委託費の増加等による経費の増に加え、人事委員会勧告に対応した給与費の大幅な増があったことなどにより総費用は前年度比6.1%の増となった。
 この結果、経常損益、単年度資金収支とも昨年度に引き続き赤字となった。
- なお、令和6年度から令和7年度にかけて、病床の削減を伴う病棟再編を実施した。（一般病床522床→520床、精神病床40床→28床）
 - (1)新興感染症拡大時、医療措置協定に基づく新興感染症エリア（受入可能病床）の整備
 - (2)精神病床の低い稼働率を踏まえ、スペースの有効活用を図るため、病床の個室化及び作業療法室の整備
- 持続可能な病院経営を確保するため、「経営改善実行プラン」に記載した取組を進め、病院一丸となって収支改善に取り組んで行く。

2. 収支改善

(1) 入院患者数の確保

	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標
1日あたり入院患者数（人）	454	439	446	455

- ・ 予定入院患者の増（手術数増加への取組やベッドコントロールの適正化等）
- ・ 手術数の増加への取組（二次医療機関からの紹介患者の増加、医師会との連携等）
- ・ 経過観察入院の推進 ・ 周産期医療提供の充実 ・ 午前退院の促進
- ・ 高機能ドック利用促進のための取組実施 ・ 患者サービスの向上
- ・ 対外的な連携の取組（広報の推進、地域医師会との連携、島根大学医学部附属病院との連携強化と役割分担） など

(2) 診療報酬単価のさらなる向上

	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標
1人あたり入院単価（円）	74,132	76,218	77,557	80,000

- ・ 外来診療の適正化・効率化（逆紹介に係る定期フォロー実施等）
- ・ 病棟再編等によるスペースの有効活用 ・ ハイケアユニット病床の適正運用 など

(3) 人員確保・人材育成と働きやすい職場環境づくり

- ・ 中長期的な病院機能等を踏まえた医師の確保
- ・ 病院機能維持向上のためのメディカルスタッフの確保・育成
- ・ 病院経営に携わる人材の育成 ・ 業務の効率化（ICT、RPA等の活用）
- ・ 働きやすい職場環境づくり（働き方改革の実施） など

(4) 予防医療の推進

- ・ 高機能ドック利用促進のための取組実施
- ・ 市民公開講座（出前講座）の開催 など

(5) 意識改革の徹底

- ・ 管理者及び院長による各診療科等ヒアリングの実施
- ・ 経営状況や経営改善計画・経営分析の共有
- ・ 部署ごとの目標の設定 など

3. 令和7年度の経営状況

(1) 入院・外来患者数（各年度累計比較）

（単位：人）

	R5. 8月末迄	R6. 8月末迄 A	R7. 8月末迄 B	増減 B－A	増減率 B／A
入院患者数	67,638	69,163	66,778	▲ 2,385	96.6%
外来患者数	93,895	94,204	91,845	▲ 2,359	97.5%

(2) 入院・外来収益（各年度累計比較）

（単位：百万円）

	R5. 8月末迄	R6. 8月末迄 C	R7. 8月末迄 D	増減 D－C	増減率 D／C
入院収益	5,187	5,330	5,284	▲ 46	99.1%
外来収益	1,853	1,937	1,967	29	101.5%
合計	7,040	7,267	7,250	▲ 17	99.8%

※計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

Ⅱ こころの医療センター

1 事業概要

- (1) 県の精神医療の基幹的病院として精神科救急・急性期医療や児童・思春期の精神疾患治療など医療の提供に取り組んだ。
- (2) 平成29年10月から指定を受けている医療観察法指定入院医療機関の運営により司法精神医療の提供に取り組んだ。
- (3) 患者数等の状況（前年度比較）

入院については診療単価は上昇するも患者数は減となり、外来については診療単価は減少するも患者数は増となった。

	令和6年度 A	令和5年度 B	増減 A－B
入院患者数（人）	54,075	55,163	▲ 1,088
上記のうち新規入院患者数	334	307	27
入院診療単価（円）	23,672	22,069	1,603
外来患者数（人）	25,031	24,757	274
上記のうち救急患者数	129	150	▲ 21
外来診療単価（円）	7,577	7,755	▲ 178

2 収益的収支

(1) 収 益

- ① 医業収益は、前年度比24百万円の増
 - 1) 入院収益：診療単価上昇の影響が大きく、患者数は減少するも36百万円の増
 - 2) 外来収益：診療単価減少の影響が大きく、患者数は増加するも3百万円の減
 - 3) その他医業収益：看護師養成事業経費負担金の減等により9百万円の減
- ② 医業外収益は、長期前受金戻入や他会計補助金の減等により前年度比22百万円の減
- ③ 総収益は、前年度比95百万円の増

(2) 費 用

- ① 医業費用は、前年度比54百万円の増
 - 1) 給 与 費：給料や手当の増等により143百万円の増
 - 2) 材 料 費：薬品費の減等により5百万円の減
 - 3) 経 費：委託料の減等により4百万円の減
- ② 医業外費用は、企業債利息の減等により前年度比7百万円の減
- ③ 総費用は、前年度比47百万円の増
- (3) 経常損益は、341百万円の損失計上となり、前年度比45百万円の減益
- (4) 純損益は、233百万円の損失計上となり、前年度比48百万円の増益

3 資本的収支

- (1) 収入は、貸付金返還金、企業債、企業債償還金に充当する一般会計負担金で608百万円
- (2) 支出は、建設改良費と企業債償還金で338百万円
- (3) 収支は270百万円

4 単年度資金収支

償却前損益に資本的収支を反映した単年度資金収支は、41百万円で前年度比273百万円の増

5 比較貸借対照表

期末現金預金残高は408百万円で、前年度比31百万円の増

【令和6年度こころの医療センター決算状況】

(単位：百万円)

	【収益的収支】	R 6 年度 A	R 5 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
1	総 収 益	2,665	2,570	95	
2	医業収益	1,530	1,506	24	
3	入院収益	1,277	1,241	36	患者数▲1,088人、単価+1,603円／人
4	外来収益	190	193	▲ 3	患者数+274人、単価▲178円／人
5	その他医業収益	64	73	▲ 9	看護師養成事業経費負担金▲10
6	医業外収益	1,026	1,048	▲ 22	長期前受金戻入▲93、医療施設物価高騰対策 応援金▲11、基礎年金拠出金▲11、 精神病院不採算負担金+62、退職手当一般会計 負担金+29、児童手当負担金+6
7	特別利益	108	15	93	過年度減価償却のうち一般会計負担金等見合 分+93
8	総 費 用	2,898	2,851	47	
9	医業費用	2,694	2,640	54	
10	給与費	1,842	1,699	143	給料+51、手当+46、賞与引当金繰入（正・ 会）+15、報酬8、法定福利費+20、退職給付費 +2
11	うち、引当金	232	212	20	
12	材料費	107	102	5	給食材料費+5
13	経費	565	569	▲ 4	P F I サービス購入費▲9、給食調理業務委託 ▲5、電気代+2、燃料費+3、賃借料+2、修繕費 +2
14	減価償却費	165	259	▲ 94	電気設備▲31、給排水衛生設備▲25、冷暖房 設備▲36
15	その他医業費用	15	11	4	
16	医業外費用	204	211	▲ 7	企業債利息▲4
17	特別損失	0	0	0	
18	経常損益	▲ 341	▲ 296	▲ 45	(2行目+6行目)－(9行目+16行目)
19	純 損 益	▲ 233	▲ 281	48	1行目－8行目
20	償却前損益	▲ 229	▲ 198	▲ 31	

	【資本的収支】	R 6 年度 A	R 5 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
21	資本的収入	608	276	332	中央病院からの貸付金返還金+300
22	資本的支出	338	310	28	施設整備+50、器械備品▲18、企業債償還金▲ 4
23	資本的収支	270	▲ 34	304	21行目－22行目
	【単年度資金収支】	R 6 年度 A	R 5 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
24	単年度資金収支	41	▲ 232	273	20行目+23行目

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

(単位：百万円)

	【比較貸借対照表】	期 末	期 首	比較増減	備 考（主なもの）
25	固定資産	3,431	3,526	▲ 95	減価償却による減等
26	流動資産	899	1,130	▲ 231	貸付金の減（500百万円→200百万円）等
27	うち現金預金	408	377	31	
28	資産合計	4,330	4,656	▲ 326	
29	固定負債	3,943	4,086	▲ 143	企業債の減
30	流動負債	674	623	51	未払金の増
31	繰延収益	160	162	▲ 2	
32	負債合計	4,777	4,871	▲ 94	
33	資本金	84	84	0	
34	剰余金	▲ 531	▲ 298	▲ 233	
35	資本合計	▲ 447	▲ 215	▲ 232	
36	負債・資本合計	4,330	4,656	▲ 326	

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

こころの医療センターの経営改善の取組

1. 経営状況と改善に向けた取組

- 令和6年度は、経常収益については医業収益の増で対前年度比0.1%の増となったものの、経常費用については給与費の増等で対前年度比1.6%の増となり、経常損益が4年連続の赤字となった。
- しかしながら、資本的収支は中央病院からの貸付金返還収入3億円の影響により27千万円余りの黒字となり、これにより単年度資金収支も4千百万円余りの黒字となった。
- ただ、厳しい状況にあることに変わりはなく、今後も持続可能な地域医療提供体制を確保することを目的として、「経営改善実行プラン 2025年度版」等の計画を基に、病院全体で経営改善に取り組んで行く。

2. 収支改善

(1) 入院患者の増加に向けた外来診療体制の見直し

- ・精神科救急事例への応需体制（外来ファーストコール体制）を強化
- ・緊急患者の積極的な受け入れ

など

(2) 児童思春期部門の充実・強化

- ・子どものこころ専門医研修施設群の基幹施設として認定を目指し、子どものこころ専門医を養成
- ・児童思春期精神科を標榜し、より専門性の高い医療提供体制を構築

(3) R6診療報酬改定を踏まえた施設基準の確保

- ・適切な検討を行い、新たな施設基準の取得
- ・既に取得している施設基準の要件確保

(4) 広報の推進

- ・病院局広報部門と連携を図り、院内の取組を情報発信

など

(5) 支出の削減に向けた取組

- ・各部署の業務効率化事例の紹介、実践
- ・電気代の削減の検討

など

3. 令和7年度の経営状況

(1) 入院・外来患者数（各年度累計比較）

（単位：人）

	R5.8月末迄	R6.8月末迄 A	R7.8月末迄 B	増減 B－A	増減率 B／A
入院患者数	22,941	22,509	21,461	▲ 1,048	95.3%
外来患者数	10,382	10,413	10,456	43	100.4%

(2) 入院・外来収益（各年度累計比較）

（単位：百万円）

	R5.8月末迄	R6.8月末迄 C	R7.8月末迄 D	増減 D－C	増減率 D／C
入院収益	502	524	504	▲ 20	96.2%
外来収益	84	82	82	0	100.0%
合計	586	606	586	▲ 20	96.7%

※R7.8月末迄の値は暫定値、計数についてはそれぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

2. 資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第22条第1項に規定する資金不足比率について、病院事業会計では令和6年度決算において資金不足が生じていないため、該当ありません。

(1) 公営企業の資金不足比率の算出方法

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金不足額}}{\text{事業規模}}$$

- ・ 資金不足額 = (流動負債－控除企業債等－PFI建設事業費等) － (流動資産)
- ・ 事業の規模 = 営業収益の額 － 受託工事収益の額

(2) 病院事業会計の資金不足比率の算出

① 資金不足額

(単位：千円)

区分	A=a-b	流動負債	控除企業債等	B=c	流動資産	資金不足額 C = A - B
		a	b		c	
病院事業会計	3,721,453	6,059,911	2,338,458	4,711,748	4,711,748	▲ 990,295
中央病院	3,319,528	5,385,844	2,066,316	3,812,645	3,812,645	▲ 493,117
こころの医療センター	401,925	674,067	272,143	899,103	899,103	▲ 497,178

- ・ 資金不足額が負の数の場合は、資金剰余額を示す。

② 資金不足比率

(単位：千円)

区分	資金不足額 C	事業の規模 D	資金不足比率 C/D
病院事業会計	▲ 990,295	19,759,179	－%
中央病院	▲ 493,117	18,252,203	－%
こころの医療センター	▲ 497,178	1,506,976	－%

(3) 参考

資金不足比率が経営健全化基準である20%を超過すると、経営健全化計画の策定が必要となる。